

ジェンダー観の違いによる基礎的な被服製作技能の比較検討

代表者 山田由佳子（家政教育講座）

分担者 尾藤真智子（家政教育専攻 4 回生）

I. 事業の目的

現在、小学校専門科目「家庭」では、簡単な被服製作実習を導入している。被服製作実習は、小中高の家庭科カリキュラムに位置付けられており、男女の区別なく履修しているはずである。しかしながら、受講生の基礎的な被服製作技能の習得状況には、大きな個人差が確認されている。こうした技能は簡単な衣服の補修やリフォームには不可欠であり、習得していることが繊維製品の寿命を延長させる効果につながる。したがって、持続可能な社会の実現を目指す上で、基礎的な被服製作技能の習得を阻害する要因を探ることが重要な課題と考える。申請者はこれまでの授業担当の経験から、基礎的な被服製作技能が習得できていないのは、相対的に男子学生が多いと感じており、その背景にはジェンダー意識が影響しているのではないかと考えた。

そこで本事業では、ジェンダー意識の違いによって、基礎的な被服製作技能の習得状況に違いがあるかどうか検討し、今後の授業における指導に役立てることを目的とする。

II. 研究方法

1. アンケート調査

調査は、調査票を用いて直接配票直接回収により実施した。調査対象者は大阪教育大学の学生である。205 票配票し、有効回収票は 200 票、有効回収率は 97.6%であった。調査時期は 2013 年 5 月末から 10 月中旬である。回答者の男女の内訳は、男性 103 人（51.5%）、女性 97 人（48.5%）であった。主な調査内容は、基本手縫い作業の学習状況及び定着意識について、衣生活作業の製作作業の関心度について、ジェンダー意識について、衣生活分野の製作作業における巧緻性について等である。

ジェンダー意識については、家事は男女の共同作業となるべきである、女兒は将来主婦になることを想定して育てるべきである、家庭の細々した管理は女性でなくはいけない、女性は男性に比べ手先が器用である、女性の居るべき場所は家庭であり男性の居るべき場所は職場である、の 5 項目について 5 段階で回答してもらい得点化したものを合計してジェンダー得点とした。得点が高い方がジェンダー意識が高いことを示している。

2. 玉結び、玉留め動作のビデオ記録及び分析

基礎的な被服製作技能として玉結びと玉留めに焦点をあて、授業における実習の様子をビデオカメラで記録・分析を行った。対象者は、1 のアンケート調査対象者のうち、2013 年度小学校教科専門科目家庭(前期木曜 2 限開講：2013 年 5 月 23 日撮影)及び生活実験実習法（後期金曜 2 限開講：2013 年 10 月 11 日撮影）において玉結び及び玉留めの実践授業を受講した 38 名（男性 19 名、女性 19 名）である。

III. 結果及び考察

1. 性別による玉結び玉留めの習得の違い

アンケートでの自己申告においては、玉結びは女性は半数以上、男性は約4割が正しいやり方でできると思うと答えており、女性の方が有意に正しいやり方でできると思う人が多いことがわかった。玉留めについては、女性は7割以上、男性は約4割の人が正しいやり方でできると思うと答えており、玉結びと同様女性の方が有意に多いことがわかった。実際に玉結び、玉留めを行ってもらったビデオ解析の結果においても、玉結び、玉留めともに男性に比べて女性の方が正しいやり方でできている人が多い傾向にあることが確認された。

従って、本学学生における今回の調査では、玉結び、玉留めが正しい方法で習得できていない人は、女性に比べて男性の方が多いことが確認された。

2. ジェンダー意識と裁縫技術の習得との関係

ジェンダー得点の分布は男性においてジェンダー得点の低い者が多く、平均点も男性の方が女性に比べて低い傾向がみられたが、有意な差は認められなかった。

ジェンダー得点中央値より、ジェンダー意識高群と低群に分けてそれぞれの玉結び玉留めの習得との関係をみた結果、アンケートによる自己申告では玉結び玉留め共に男性も女性もジェンダー意識の違いによる有意な差は認められず、今回の質問項目によるジェンダー意識は自己申告による玉結び玉留めの習得に影響を与えていないことがわかった。

一方で、ビデオ解析による玉結び玉留めが正しいやり方で出来ていたかどうかとジェンダー意識の関係をみると、玉結び玉留め共に男性においてはジェンダー意識が低い人ほど正しいやり方でできる人が少なく、女性においてはジェンダー意識が低い人ほど正しいやり方でできる人が多い傾向があることがわかった。これは、男性においてはジェンダー意識が低い、すなわち男性は裁縫などできなくてよいと思っているため、裁縫技術が習得できていない可能性が考えられる。女性では、ジェンダー意識が低い、すなわち男性は裁縫などできなくてよい、女性がやらなくてはいけない、と思っているため裁縫技術の習得ができていない傾向があるのではないかと考えられる。

IV. まとめと今後の課題

今回の研究の結果、本学学生では玉結び、玉留めが正しい方法で習得できていない人は、女性に比べて男性の方が多いことが確認され、平均値ではジェンダー得点に男女差はみられなかったものの、ビデオ解析の結果ジェンダー意識が技術の習得に影響を及ぼしている可能性が示唆された。しかし、ビデオ解析による結果はN数が少なく、検定までは至らず傾向にとどまっていることから、今後はビデオ撮影のN数を増やし、ジェンダー意識の測定項目も改良を加えて更に検討を続け、男女共に基本的な裁縫技術の習得率を高めるために役立てたいと考えている。